

# 丹那隧道工事誌

## 一般篇

### 第一章 概説

丹那隧道は伊豆半島の主山脈を東西に横断する隧道で、熱海町西方高地海拔 230 呎の地點に起り瀧地山及丹那盆地の直下を貫通して、函南村大竹に終る延長實に 25,603 呎の複線型の大隧道である。

明治 44 年實測に基いて翌明治 45 年 4 月 15 日中管甲第 420 號を以つて、中部鐵道管理局長から總裁に對して熱海線の敷設線路選定の 1 部として公式に伺ひ出られたのである。しかし此の選定には多少考究の餘地があつたので更に種々改測が行はれ、結局大正元年 10 月 1 日工第 961 號を以つて總裁から選定の認可があり、こゝに今日の丹那隧道の位置を得たのである。たゞ選定當時に計算せられた丹那隧道の長さは 25,614 呎であるけれど工事施行の結果得た延長は前記の通り 11 呎の差を生じたのであるが此の點のみ選定と異つてゐるのである。

工事施行の爲め東口及西口に夫れ夫れ工事監督の必要上詰所が設置され、大正 5 年先づ東西兩口に於ける材料運搬輕便線の敷設工事から着手されたのである。

隧道が最初に計畫された竣功期限は 7 年で、豫算は 7,700,000 圓であつたが、實際には竣功までに 16 年を要し工費も 26,000,000 圓を要したのである。

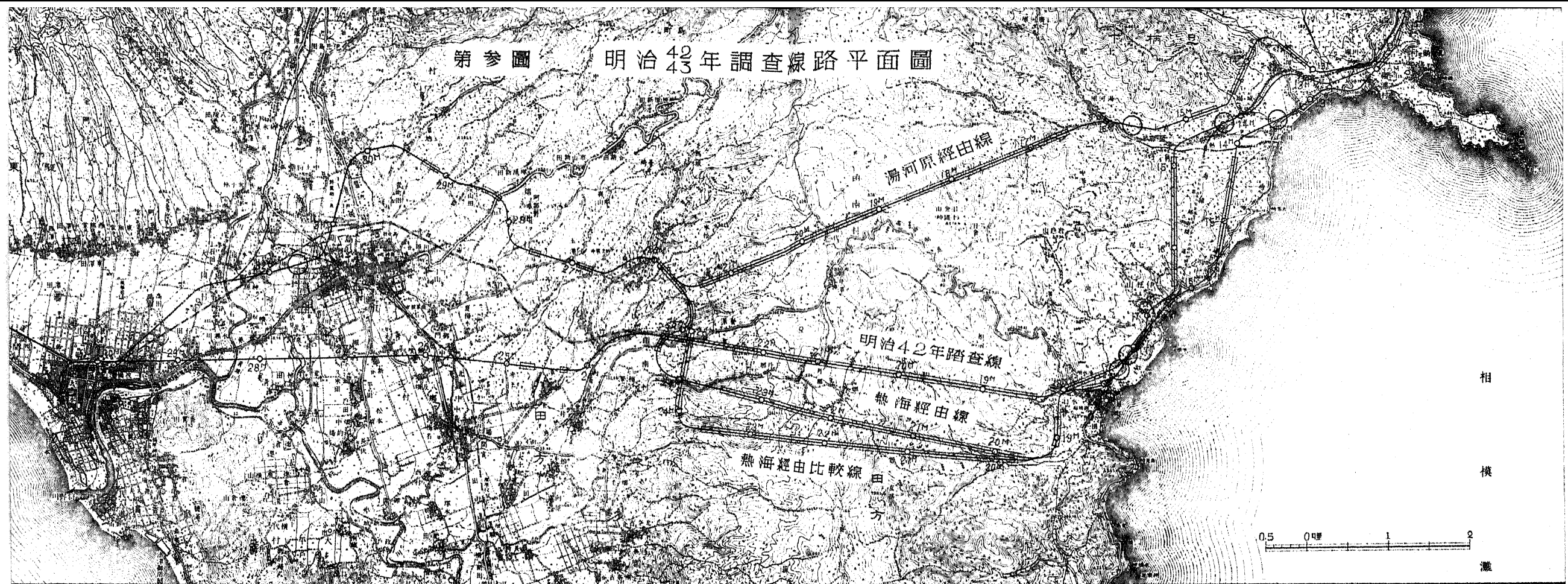
此の工事は直營施行と云ふ事で一切は熱海線建設事務所の手に依つて計畫並施行せられたのであるが、東西兩口には人夫供給者を特命して、之に諸職工人夫の供給や時には材料の供給もさせ又工事の 1 部を切投請負、部分請負等に附したのである。

東口の人夫供給者は鐵道工業株式合資會社（後の鐵道工業株式會社）西口は鹿島精一（後の株式會社鹿島組）であり、東口は大正 7 年 4 月 1 日、西口は同年 7 月 5 日夫れ夫れ隧道の掘鑿に着手されたのである。

爾來工事は比較的順調に進められたのであるが、掘進するに従つて隧道内の湧水が多くなり、従事員は非常な苦心をすることになつたのである。此の多量な湧水を處理する爲め、大正 14 年以來本隧道の外に水抜隧道を掘鑿することになり、多量の湧水は皆此の水抜隧道に收容することにな



第參圖 明治43年調查線路平面圖



第四圖 明治44年實測並45年改測線路平面圖

